10 月号 第 13 回　月曜木鶏会感想用紙　発表日: 2018 年 9 月 10 日
作成者:

P54『子どもの脳を傷つける親たち』を読んで

①感じたこと(人生・仕事にどう生かすか 等)

友田さんが提唱する、不適切な養育から子供を守ろうとする考え方には共感できる。

しかし、世の中は、とても残酷で理不尽である。
人は、そのような中で生まれ成長して行く。

僕の両親に対する一番古い記憶は、
二人がつかみ合いのケンカをしている記憶だ。
その当時住んでいた木造一軒家の縁側で
父と母がお互いに相手の髪の毛を掴んでいた所を
庭で砂遊びをして遊んでいた僕は、ジッと見ていた。
すると、罰悪そうに母から『お父さんとお母さんどっちが悪いと思う』
と聞かれ、僕は『分からない』と答えた。
子供ながらに我家の両親は、そうとう仲が悪いのだな、
と僕は感じた。

そして、僕が幼稚園の時、両親が離婚した。

その後の母は、ヒステリックになることが多く
何かと理由も無く、僕を殴った。

時には、箒の柄が折れるまで殴られて、
体中が青あざだらけで学校へ行った事もあった。
正直、一歩間違えれば、死んでいたかもしれない。

でも、だからと言って僕に内発力が育たなかった事は無い。
むしろ、『親に依存して生活している以上、
理不尽でも親の言うことを聞き入れるのは仕方ない、
だから、早く大人になって自分で稼ぎたい。』
と心の底から強く思った。

内発力とは、内側からの欲求によって起きるさま、である。

と、なれば、見方を変えれば、不幸な環境であればある程
心の底からその環境を変えたいと思う内発力が生まれるはずである。

松下幸之助さんは言っています。
『苦難が来ればそれも良し、
順調ならば更に良し、
という心づもりを常に持ち、
人一倍の働きを積み重ねてゆくことが大切』
であると。

人は生きねば、なりません。
そして、人生は思い通りに行きません。

思い通りに行かない事を
腐って嘆き悲しむのではなく、
どうすれば改善できるのかと考える
内発力の源泉として捉え、
僕は生きて行きたい。

②仲間の発表を聞いて気付いたこと